

### 市の指定文化財②

# 延徳銘地蔵菩薩石仏

阪奈道路の「竜間」バス停から北に急な坂を登り、さらに石段を登ったところに龍光寺があります。石段を登って左手に入ったところに地蔵菩薩の石仏があります。

この地蔵菩薩石仏は、二段につくった台座の上部を蓮台とした上に、舟形光背を背に立っています。右手に錫杖を持ち、胸の前にもつてきた左手に宝珠を持つ通常の像です。

高さ128センチ、幅65センチの光背に、高さ86センチの半肉彫りの像です。

像の厚みにやや欠けるところや、蓮台が線刻で、衣紋の文様が直線的となっているところは、やや形式化が見られますが、像と光背の輪郭はバランスが良く、絶妙な印象を与えます。向かって左に「延徳二庚戌三月」（1490）の銘が

あることから、室町時代後期の造立と分かり、大東市内で確認されている在銘の石仏としては最も古いものです。

地蔵菩薩に対する信仰は、平安時代中期の末法思想に伴って広まり、室町時代には庶民の間でも盛んになっていきました。戦国時代の世に、地域の人々が地蔵菩薩に寄せた救済への願いからこの像が造られたものと考えられます。

（市史編纂委員 岡村喜史）



龍間所在